

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
成人看護学方法論Ⅲ	2年次 後期	必修	講義	1単位（30時間）	霜垣 美由紀 ※
授 業 概 要					
成人期にあり、高次脳機能障害及び運動・感覚機能障害を持つ対象の病態を理解し、機能障害について特徴を捉えながら、障害を持つ患者の受容段階、生涯にわたる自己管理、日常生活行動へのセルフマネジメントと社会復帰への支援について学ぶ。					
到 達 目 標					
1. 健康障害・機能障害が患者・家族の健康と生活に及ぼす影響を述べる。 2. 脊髄損傷患者の障害レベルと受容段階を理解し、残存機能を最大限に生かすための支援と援助方法を述べる。 3. 健康障害・機能障害を持ちながら社会復帰するための患者・家族への支援方法を述べる。 4. 健康の回復・維持に向けて患者がセルフマネジメントを継続するための支援方法を述べる。 5. 脳血管障害回復期にある対象のアセスメントを行い、対象の状態に合わせた看護計画を立案する。					
実務経験のある教員					
霜垣 美由紀・木竜 理恵子： 高次脳機能障害、運動・感覚機能障害を持つ対象への看護がどのように展開されているのかを病院での臨床経験を踏まえて教授する。					
回	学 習 内 容				担当教員
1-5	1. 意識障害・高次脳機能障害を持つ対象の看護 1) 脳神経疾患の主な症状と看護 2) 検査・治療を受ける患者の看護 3) 脳血管障害（急性期）患者の看護				霜垣 美由紀 ※  外部講師
6・7	4) 脳血管障害患者のリハビリテーション看護				
8-11	2. 演習 事例展開 脳血管障害患者の回復期の看護を考える。 1) アセスメント・看護計画立案				木竜 理恵子 ※ 他保健看護科教員
12-15	3. 運動機能障害を持つ対象の看護 1) 脊髄損傷患者の看護 2) 演習 脊髄損傷患者の日常生活援助技術				霜垣 美由紀 ※
学 習 方 法					
講義・演習形式で進める。限られた時間で多くの内容について学ぶので、学習内容に関連する既習の知識については事前学習、自己学習が必要である。教科書以外にも関連する文献や各種メディア等から最新の情報を得て幅広い視点で理解を深めていくことが望ましい。					
評 価 方 法					
[評価方法] 科目修了試験、演習及びレポートによる評価を行う。 評価の詳細は講義の初回に提示する。					
先 修 科 目					
なし					
教科書、参考書					
[教科書]					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [7]	脳・神経	竹村信彦 他	医学書院		
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [10]	運動器	加藤光實 他	医学書院		
リハビリテーション看護改訂第2版		酒井郁子/金城利雄編	南江堂		
新体系看護学全書 経過別成人看護学③ 慢性期看護		黒江ゆり子 編	メヂカルフレンド社		
看護過程に沿った対象看護 病態生理と看護のポイント		高木永子 監修	学研		
今日の治療薬 解説と便覧		浦部晶夫 他 編	南江堂		
検査値 早わかりガイド		江口正信 他	サイオ出版		
日常生活行動から見るヘルスアセスメント		大久保暢子 編	日本看護協会出版会		